（別紙4-1）

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0194600151		
法人名	社会福祉法人帯広太陽福祉会		
事業所名	グループホーム広野の家		
所在地	帯広市広野町西3線152番地		
自己評価作成日	平成23年12月8日	評価結果市町村受理日	平成24年2月23日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0194600151&SCD=320

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

環境に恵まれ、地域の方の協力があり、ホーム周辺の環境整備ができている。また、今年は地域の方による萱ぶき屋根の東屋が出来、憩いの場所が増え地域の方、保育所の園児等とのふれあう機会が増えた。毎日の散歩はかかせないが、地域の方の声により、近場の公園までの遊歩道が作られ、安全な散歩コースが確保された。日常的な生活では、食事の準備、配膳、片付け、掃除等その方ができることを提供し、もっている力を発揮していただいている。外出行事も多く、笑って楽しく過ごせるように、職員は努力している。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	江別市大麻新町14-9　ナルク江別内
訪問調査日	平成23年12月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

静かな田園地帯で雄大な日高山脈の裾野に、グループホーム広野の家がある。地域の人に恵まれ地域との交流も深く、住民から譲り受けた鶏とウサギを飼うためのビニールハウス、近くの公園に接続する500メートルの遊歩道、敷地内の藁葺きの東屋、これらは地域住民からなる協力会によって完成した。利用者は役割分担で鶏を飼い、新鮮な卵を口にしている。毎日の散歩、ハウスでの畑仕事など日常的に外気に触れる機会にも恵まれている。夏には他施設の利用者と一緒に焼肉と流しソーメンの会を楽しんだり、年に2回、一泊旅行がある。事業所は避難訓練を近隣の住民の協力を得て毎月実施し、問題点があれば推進会議に諮るなどして改善を図っている。管理者は現状に甘んじることなく職員の人材育成にも熱心で、内部・外部研修に参加させ、資質の向上に取り組んでいる。又、職員の提案制度を取り入れ意見・提案により改善に至った例も多い。笑いが絶えない活き活きと働く職員に見守られながら、利用者はその人らしい毎日の生活を送っている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

（別紙4-1）

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業内容をリビング、休憩場所等に掲示し、職員は常に原点にもどり、理念に基づき仕事をしている	［その人らしい生活」「日常生活の中の役割」「心触れ合う明るい家」「地域と積極交流」などの基本理念はリビングと休憩室に掲示してあり、職員は日々のケアの中で常に意識して理念の実践に向けて取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の協力会により、ホームの環境整備、東屋の製作等、地域とのつながりがあり、町内の行事にも参加し交流が図られている	町内への行事にも積極的に参加し地域との密接なつながりができている。地域住民による協力会があり、本年度は延べ100人が参加し、6ヶ月かけて敷地内にわら葺の東屋が完成した。以前にもビニールハウス、公園までの遊歩道が出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	”いこい”という地域の高齢者との交流会がある。会食、ゲーム等で交流を深めている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回、運営推進会議を実施し、具体的な活動を報告し、いろいろな助言をいただいている。	地域住民、包括支援センター、家族会、自治会、大学教授などが参加し年6回実施。現況報告だけでなく、例えば、夜間避難の際の「センサーライトの設置」が提案され実現の予定である。積極的にｻｰﾋﾞｽの向上に活している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	まずは、電話連絡し、内容によっては、市役所まで出向き、相談をする	事業所はケアサービス向上のためには市担当者との連携が不可欠であることを充分に理解している。管理者は様々な機会を利用して市に出向き情報を交換、連携を深めている。年に2回程市役所から担当職員が来訪する。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の状態を常に把握し、リスクを考えながら、活動性を高めている。職員は研修に参加し質の向上を図っている	身体拘束をしないケアの為に職員は内外の研修に出席するなど、資質の向上、人材育成に力をいれている。利用者の人権を尊重するケアの重要性を職員はよく理解している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修会等に参加し出席できない職員には、会議内で報告し、職員全員で情報を共有している		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等に参加し情報を共有している。必要時には会議等で検討している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項の説明書、運営規定等の説明を行っている。また、不明な点が発生した場合はすぐに対応している		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の思い、苦情、意見はその場で聞くような雰囲気を常に作り、家族の意見については、面会時、年2回の家族会を開催し、意見交換の場を設けている	街から離れているにも拘わらず家族がよく訪問する。その際、職員と利用者の日々の過ごし方などについて話し合い、意見要望があった際は即対応し運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の”提案”を取り上げるシステムがある。1カ月に1回はスタッフ会議を開き、職員同士が何でも言えて、情報を共有する場になっている	平成19年より職員の提案制度を設け、年間24～35の提案が有り、15～16件程が採用されて、事業所の運営に大きく反映している。職員が積極的に提案する気風が生まれた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の適正を見極め、得意分野を生かせるような業務分担をしている、また、園内、園外の研修に参加している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	いろいろな分野の研修会に参加して、研修内容は会議等で報告している。また、研修会に参加できなかった職員も学べるようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	十勝グループホーム協議会に加盟し、相互研修等の研修にすすんで参加している		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者、家族の意見や面談等で、不安、要望を聞き、少しでも早くホームに慣れて頂くように対応している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	提供している介護サービスの内容を充分理解していただき、意見を出しやすい雰囲気を作っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用にあたり見学していただくことを原則としてホームでの生活、環境、サービス内容を説明し納得して頂いている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者主体の生活が営まれるように、得意分野、役割等で生き甲斐につながるように生活全般に配慮している		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と共に支えあえることが大切であることを説明し、受診、外出等の機会をお願いしている。また、状況については、面会時、行事等で密に伝えている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の要望を聞き、外出の機会を作ったり、連絡が取れる方は電話、手紙等で今までの関係を保っている	家族、馴染みの人が訪問することが多く、孫や友人等が尋ねて来る方も有る。職員が同伴して墓参りに行くなど、一人ひとりの馴染みの関係を継続出来るよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	車椅子を押しながら散歩する等、共に行動することで、助け合う関係ができている		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の特養に入所された方との関係が継続できるように、グループホームに来て頂いたり、訪問したりしている		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が遠慮することなく、何でも話せるような信頼関係を築き、どんなことでも聞き入れるようにしている。チームケアで取り組んでいる	その人らしい暮らしを続けるためには利用者の意向の把握が不可欠であることを充分理解し、日々のコミュニケーションの中から意向の把握に努めている。意思疎通が困難な場合には、家族や関係者から情報を得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、家族からも生活歴を聞き、今までのくらしが継続できるように努力している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の状態報告を密に行っている。また、カンファレンスを定期的または、必要時に行い、有する力を低下させないように努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に利用者の状態を把握し、会議等で職員全員で意見をだし、情報を共有している。また、状態に変化があった場合はサービス担当者会議を実施している	日々の関わりの中で利用者の状態を把握して情報を共有し、介護計画を作成している。利用者に変化があった場合にはその都度見直し計画を変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は日中、夜間とも毎日記録している。介護計画に基づいて記入することで、見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域に即したホームとして地域住民の協力を仰ぎながら在宅の高齢者との交流をもっている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との連携がとれているので、地域の行事については、参加し楽しまれている。また、近場だけではなく、いろいろな公共施設、娯楽施設等に外出している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に嘱託医に診察していただいている。また、本人の希望するかかりつけ医にも診てもらえるように支援している。看護師も定期的に訪問し適切な医療を受けられる体制ができている	本人、家族の希望により、かかりつけ医への通院を支援している。定期的に嘱託医の診療を受け、経営母体の太陽園から定期的に看護師が訪問する。	

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に看護師の訪問により、状態報告し、異常の早期発見ができ、適切な指示を仰いでいる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院については医療関係者と連携し、入院が長期にならないように配慮している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には説明している。重度化しても安心して暮らせるようなホーム作りを目指しているが、地域的にも難しいこともある	重度化した場合は家族と相談して、利用者の心身の状態を見ながらその都度話し合い、経営母体の総合施設である太陽園に移行し、看取りまでの支援をしている。	利用者の平均年齢が85歳を越えており、終末期・重度化に向けて、職員の理解と家族への説明が充分に果たせるように、その内容や方法などをマニュアル化することを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、緊急時にはすぐに、対応できるように、研修会等にも参加している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の緊急時対応マニュアルと緊急連絡網を作成し、今年度は夜間を想定し、職員全員で月１回避難訓練を実施した。また、運営推進会議時にも近隣の方にも協力していただき訓練を実施している	夜間を想定するなど、月１回地域住民の協力を得て避難訓練を実施し、問題点は職員会議や運営推進会議に諮るなどして改善している。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのプライバシーを尊重した声かけや対応に心がけている。気になる時には、会議等で全職員に意識を徹底している	職員は、「その人らしい暮らし」のためには利用者個々の人格の尊重が不可欠であることを理解して、日々支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思をしっかり聞いてできるだけ、本人の希望を叶えられるように努力している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの今の気持ちを尊重して、本人のできることを提供し、その方に合わせたペースで支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が必要な化粧品、衣類等、職員が代行して購入してきたり、本人と一緒に外出しておしゃれを楽しんでいる		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りは皆さんで楽しみながら作っている。配膳、片付け等も手伝っていただいている	献立は利用者の希望を取り入れ、旬の食材を利用し総て手作りである。自分たちで作った野菜などを利用、例えば事業所で飼う鶏の卵でヨーグルトを手作りしている。職員も同じテ-ブルを囲んで一諸に楽しく食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量が減少していたり、体重の減少がある場合は、量のチェック表をつけ、状況によっては看護師に相談している。また、体重、排泄表を記入し、健康状態を把握している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを実施している。入歯の不具合、痛みのある場合は歯科受診をしている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全員、トイレで排泄する。夜間もオムツ使用していない。失禁のある方には、排泄表、時間を見ながら、声かけ、誘導をしている	一人ひとりの排泄パーターンを把握しその人に合せトイレ誘導をしている。利用者の能力保持と排泄の自立の重要性を理解して、オムツの使用は避けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日1回は散歩し、運動量を保ちながら、できるだけ下剤を減らし、自然排便ができるように、玄米、オリゴ糖等を使用している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ゆっくり入浴していただくように、2か所の浴槽を使用し、曜日を変えている。足が冷たい方には、就寝前に足浴を実施している	入浴の時間帯等は本人の希望を尊重している。入浴を嫌がる利用者には、タイミングを見て声かけ対応し、入浴を促している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	活動的な生活をおくることで、安眠の確保を図り、就寝時間まで楽しむことの工夫をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は必ず読んで、副作用には注意をしている。また、状態を観察しながら、看護師と相談し、薬の調整等を適宜おこなっている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の習慣を尊重して、できることは積極的に発揮できる場を作って、達成感を経験できる機会を図っている		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩が日課となり、必ず、1日1回は外に出て、気分転換をしている。また、月に1度は、全員でドライブをし、日常見ない風景を楽しまれている	毎日の散歩など日常的に外に出て外気に触れる機会を作って支援している。公園への遊歩道、藁葺き東屋、鶏・ウサギ小屋、野菜を作る畑などが有り、外出を促す環境が整備されている。また年2回、家族の協力の下1泊旅行を行い、外出支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理出来る方には、していただいている。また、買い物等で、自分の物の購入は、そこから出して、金銭感覚を失わないようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙で定期的に交流したり、電話をかけたい時には、かけてもらい、家族や大切な人との関係を維持できるように配慮している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れるために、設えを替えたり、花を飾ったりして生活感を出している。利用者の方の状況によって、過ごしやすい環境にするために、時には部屋の模様替えも行っている	食堂と居間は一体的で広く、窓からは明るい日差しが入り、日高山派の美しい景色に季節を感じとる事が出来る。快適な環境のもと嫌な臭いや音もなく、利用者が落ち着いて過ごせる共有空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング以外にも、ゆっくり過ごせるスペースがあり、時には、リビングでない場所で作業をしたり、おしゃべりをしていることがある		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具などを持参していただいている。その方に合わせて、移動しやすいように工夫したり、危険がないように部屋の模様替えを本人と相談しながら行っている	思い出の写真や趣味の品々、又、仏壇などが持ち込まれ、利用者の今迄での生活と繋がりに配慮し、心地良く過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	テーブルの位置を変えたり、椅子を変えたり、その方の状態に合わせて、できるだけ自分でできるように工夫している		